

5 国際理解教育

国際交流で培う国際理解教育

澤田 真実

本論の要旨

本校の教育目標の一つに、「国際的視野に立ち、国と郷土を築く人間に」とあり、国際理解教育の推進は本校の教育活動の重点目標の一つである。その取り組みとして、本校では国際交流を一つの柱に取り組んできた。これまで、平成 18 年(2006 年)度に韓国教員大学校附設美湖中学校姉妹校と提携を結び、本校の修学旅行の行き先を韓国とし、交流を行ってきた。しかし、平成 25 年(2013 年)度に韓国への修学旅行は終了した。そこで、修学旅行先が国内に変更して、異文化理解、相互理解を深めると共に、海外の学校との交流を通してコミュニケーション能力の構築を目指すような取り組みを試みた。例えば、台湾の國立台湾師範大學附属高級中學校國との交流である。

実際に外国の人と交流することは国際理解の第一歩であり、その体験を通じて、諸外国の生活・習慣・価値観などについて「違い」を「違い」として認識し受容していく態度や、相互に共通している点を見つけていく態度、相互の歴史的伝統・多元的な価値観を尊重し合う態度などの育成を目指したい。

キーワード 交流, 相互理解, コミュニケーション能力

1. はじめに

平成 8 年(1996 年)の『21 世紀を展望した我が国の教育の在り方について』によると「国際理解教育は、各教科、道徳、特別活動などのいずれを問わず推進されるべきものであり、…この教育(国際理解教育)を実りのあるものにするためには、単に知識理解にとどめることなく、体験的な学習や課題学習などをふんだんに取り入れて、実践的な態度や資質、能力を育成していく必要がある。」¹とある。本校でも、この理念に基づき、実際の国際交流を通じた、体験として学んでいく国際理解教育を進めていきたい。

2. 本校の国際理解教育

目的

- ・海外の学校との交流を通して、豊かな国際感覚を身につける。
- ・国際的視野から自国や海外の国を見つめ直し、平和な社会や国際協調の大切さを考える。
- ・英語でのコミュニケーションを通して、英語を運用する力を身につける。

第 1 学年：世界の国々について知ろう

- ・韓国教員大学校附設美湖中学校の生徒のホームステイ受け入れと準備
- ・韓国教員大学校附設美湖中学校の生徒との授業体験
- ・韓国語のゲストティーチャーを迎えての「韓国語の言葉と文化」についての講義
- ・韓国教員大学校附設美湖中学校交流事業

第 2 学年：世界の国々の人と交流しよう

- ・韓国教員大学校附設美湖中学校の生徒のホームステイ受け入れと準備
- ・韓国教員大学校附設美湖中学校の生徒との授業体験
- ・國立台湾師範大學附属高級中學校國との交流
- ・韓国教員大学校附設美湖中学校交流事業

第 3 学年：世界の国々と日本の関係について考えよう

- ・韓国教員大学校附設美湖中学校の生徒のホームステイ受け入れと準備
- ・韓国教員大学校附設美湖中学校の生徒との授業体験
- ・國立台湾師範大學附属高級中學校國との交流
- ・韓国教員大学校附設美湖中学校交流事業

3. 実践事例

実践事例①1 学年「韓国の言葉と文化」

(1) 学習計画

第 1 時：韓国の言葉について知ろう

第 2 時：韓国の学校と文化について知ろう

(2) 学習目標

- ・韓国人のゲストティーチャーから韓国の言葉と文化について知り、興味を持つことができる。
- ・学習した韓国の言葉を使ってゲストティーチャーと簡単な挨拶や会話ができる。
- ・ゲストティーチャーに様々な質問をして、韓国と日本の違いについて知ることができる。

(3) 展開

第1時

	学習内容と学習活動
導入	<p>1. 本時の学習のねらいを確認する。</p> <p>本時の目標 「韓国について知ろう① ～韓国の言葉と文化」</p> <p>2. ゲストティーチャーの紹介 ○自己紹介を聞き、韓国語で挨拶をする</p>
展開	<p>3. 韓国語の学習 ○韓国語での簡単な挨拶を学習する。</p> <p>4. 韓国の中学についての学習 ○韓国の中学についてのクイズに挑戦し、ゲストティーチャーから韓国の中学校についての話を聞く。</p> <p>5. 自己紹介 ○習った表現を使って、ゲストティーチャーに自己紹介をする。 「제 이름은 쿠마몽 입니다. (私の名前はくまモンです.) 「체イル문 쿨마문 이문다」 ○ハングルで書かれた自分の名前のカードをもらい、ワークシートに書き込む。</p>
まとめ	<p>6. 次時の準備 ○次時に聞いてみたいことをワークシートにまとめる</p>



写真1 本時の様子

第2時

	学習内容と学習活動
導入	<p>1. 本時の学習のねらいを確認する。</p> <p>本時の目標 「韓国について知ろう②～韓国の言葉と文化」</p> <p>2. あいさつ ○前回学習した韓国語で挨拶をする</p>
展開	<p>3. 韓国語の学習 ○学校生活で使うものを韓国語で学習する。 ○ハングルの書き方の基本的な規則を知る。</p> <p>4. 韓国の学校や生活についての学習。 ○ゲストティーチャーに韓国について質問をし、説明を聞く。</p>
まとめ	<p>5. 学習のまとめ ○今回の2回の学習で学んだことをふりかえる。</p>



写真2 本時の様子

実践事例②韓国教員大学校附設美湖中学校との交流

姉妹交流プログラムスケジュール

本年度も例年に引き続き、美湖中学校から十数名の生徒が来日し、本校と交流することを予定していた。全校集会の歓迎会を催して、各学校の紹介をしたり、出し物を披露したりという交流をする。その後、美湖中学校の生徒が本校の普段の授業体験をしたり、浴衣、書道等の文化体験をしたりして、さらに日本文化に触れる機会を設ける。夜は、本校の生徒の各家庭でホームステイをする予定であった。しかし、4月に熊本で発生した地震により、その被害を心配され、今回の交流事業は中止することになった。

予定していた流れ

4月12日(火)
ホームステイ受け入れ希望アンケート全校配布

4月中旬
ホームステイ受け入れ先決定、授業体験の決定

5月初旬
文化体験の決定
ゲストティーチャーに依頼し、韓国語講座の準備、通訳の手配
歓迎全校集会の準備

5月10日(火)
ホームステイ事前説明会

1年生 「韓国の言葉と文化」第1時

5月17日(火)
1年生 「韓国の言葉と文化」第2時

5月24日(火)
美湖中学校 本校到着、ホームステイ

5月25日(水)
全校歓迎集会、授業体験、文化体験、給食

5月26日(木) 本校にて見送り、帰国

中止になった流れ

5月2日(月)に美湖中学校よりメールが送られてきた。「熊本での地震の影響により、訪日の生徒等への心配が予想されるので、今回の訪日をキャンセルしたい。ただし、韓国訪問は歓迎する」という内容であった。そこで、5月6日(金)全校に美湖中学校の訪問がなくなったことを伝える。各担任より、ホームステイ先の家庭に中止になった旨を伝えた。

実践事例③国立台湾師範大学附属高級中学校國中部との交流

昨年度より、国立台湾師範大学附属高級中学校國中部との交流を始めた。主に、インターネットを介した交流をした。

(1) 目的

- ・海外の学校との交流を通して、豊かな国際感覚を身につける。
- ・国際的視野から自国や海外の国を見つめ直し、平和な社会や国際協調の大切さを考える。
- ・英語でのコミュニケーションを通して、英語を運用する力を身につける。

(2) 内容

国立台湾師範大学附属高級中学校國中部と Web 会議システムやメール等を利用して、お互いの学校や国のことについて英語を使って、交流する。

(3) 実施計画

- ①第1回代表生徒会議 5月10日(火)放課後
代表生徒の紹介、交流についての説明。
- ②第2回代表生徒会議 6月8日(水) 放課後
メールの送信
(以後は2~3週間に一回集まり、メールを受け取り、返信することを繰り返していく)
- ③第3回代表生徒会議 7月
交流内容と進め方の決定
- ④第4回代表生徒会議 7月
放課後、昼休みにテレビ会議システムの操作と交流の練習
- ⑤交流本番
Skype によるやりとり本番

(4) 交流内容

- ・自己紹介(名前と学年)
- ・学校の紹介
- ・相手の学校への質問

(5) 交流の様子

リアルタイムで交流できることで、生徒達はお互いに大変喜んで交流を進めることができていた。しかし、音声が少し聞きづらいことがあった。

そこで生徒達は即座に紙に文字を書いたりして、臨機応変に工夫をして、コミュニケーションをとろうとする姿が見られた。

(6) 交流後の感想

うまくインターネットがつながらず、限られた時間での交流となったが、生徒は台湾の生徒や教員とのパソコンの画面上で英語で話せることを楽しんでいた。テーマに沿って、本校の紹介をしたり、あらかじめ準備をしておいた質問を投げかけたりと、普段英語の授業では感じることはできない「英語が通じた」「台湾に友達ができた」ということを実感していた。

メールの交流相手にも、自己紹介をしたり、台湾の学校や文化・食事等の質問をしたりしていた。英文だけのメールだけでなく、相手に自分のことをより知ってもらうために写真などを添付するなど、積極的に交流する姿が見られた。早く相手からの返事が見たくて、次の交流の時間を楽しみにしている様子を感じられた。

実践事例④韓国教員大学附設美湖中学校交流事業

(1) 旅行日

10月26日(水)~28日(金) (2泊3日)

(2) 趣旨

滋賀大学教育学部附属中学校における英語教育及び国際理解教育推進の一環として、本校生徒が姉妹校である韓国教員大学校附設美湖中学校を訪問し、学校生活や家庭生活等の体験を通して文化的視野を広げ、国際社会にふさわしい豊かな国際感覚を醸成することを目的として実施する。また、修学旅行が一昨年度から韓国から国内に変更になり、学年全体での訪問はなくなったが、姉妹校としての交流を継続することも目的の一つである。

(3) 人員

生徒15名、教員2名、添乗員1名

(4) 内容・日程

- 1日目 10月26日(水)
- 8:00 大津駅前集合
 - 9:40 関西国際空港着
 - 11:55 関西国際空港発
 - 14:45 金浦国際空港着
 - 17:00 韓国教育大学附属美湖中学校着
歓迎交流会
 - 18:00 美湖中学校発 各家庭へホームステイ
- 2日目 10月27日(木)
- 8:30 美湖中学校集合
 - 8:50 歓迎全校集会
 - 10:00 交流授業Ⅰ(40分授業)



写真 4 歓迎交流会の様子

数学・理科・環境・家庭・技術・美術・
体育より選択

10:50 交流授業Ⅱ (40 分授業)

韓国語・英語・理科・体育・数学より選
択

11:40 昼食・休憩

13:20 文化体験Ⅰ

ハンボック体験または韓国紙体験

14:15 文化体験Ⅱ

ハンボック体験または韓国紙体験

15:00 帰りの会・記念写真

15:15 美湖中学校発 ホームステイ



写真 5 歓迎全校集会と文化体験授業の様子

3 日目 10 月 28 日 (金)

8:10 美湖中学校集合

8:30 美湖中学校出発

10:20 現地研修Ⅰ 景福宮

10:40 現地研修Ⅱ 仁寺洞

12:20 昼食

13:00 仁川国際空港着

15:20 仁川国際空港発

17:05 関西国際空港着

19:15 大津駅前着、解散

生徒の感想

・秋休みの 3 日間がとても充実したものになった。それは、普段できない国際交流を行い、韓国の食文化、生活風景、学校生活の様子等、多くのことを感じ取ることができたからだと思う。今回の交流事業で、私が目標にしていたことは、「ホームステイ先の生徒以外の友達をつくる」ということだった。歓迎式の挨拶で、「気軽に話しかけてきてください」と言ったら、多くの生徒さんが自ら話しかけてきてくれてたくさ

ん友達を作ることができた。今回作った友達とこれから先も仲良くしていきたいと思う。本当にかげがえのない経験ができて良かった。

・美湖中学校の授業を受けたり、ホストファミリーと交流したり、景福宮に行けたりと、今回この事業に参加ができて本当に良かったと思う。特に、韓国の人との交流では、日本語が通じない環境でどうにか伝えようと英語で話したことによって、英語力も少しはついたと思う。それに、違う文化に触れることによって、日本がどれだけ素晴らしい国か気づくことができた。韓国のことがもっと好きになったりした。学校を通して、多くの友達を作ることができたので、これからも続けていきたいと思う。このような国際交流は必要だと思ったし、私自身も今回交流して、これからも様々な国際交流をしていきたいと思うことができた。

4. 本年度の取り組みの成果と課題

一昨年度から修学旅行が国内となったが、美湖中学校との国際交流の取り組みは続けることができた。特に、本年度は新しく美湖中学校へ 15 名の生徒を交流事業として参加させることができたのは、大きな成果である。交流事業を通して、実際に現地の学校へ行き、授業や体験や文化交流を通じて交流できたことは貴重な経験となった。帰国後は一人一枚新聞を作成し、韓国で見て学んできたことをまとめさせ、全校掲示したので、多くの生徒や保護者に見てもらえた。さらに、全校集会で「報告会」と題し、各個人で役割分担を決め、紹介できる写真とともに交流事業について感じたことや学んできたことを話すことができた。またゲストティーチャーを迎えての韓国についての異文化学習も美湖中学との交流があることで、生徒達の意欲も高く持つことができていた。

國立台湾師範大學附属高級中學校國中部との交流はインターネット環境の整備や担当者の交代などで、いったん中止となり、生徒の国際交流の場が一つ減ることとなった。残念だが、今後また機会があれば継続したい。ICT を使用し、海外との交流をリアルタイムでできたことは国際交流の新しい形の可能性がでてきた。

今後は実際の国際交流を通じて、異文化を理解する力の育成と共に、外国の事象と日本の事象を比較して、その相違を、あるいは同質性を論じ、では、なぜにそうであるかと議論をすると、高質で味わいの深い活動が期待できる。